

## 妊婦さんへ風疹からの緊急避難行動のお願い 緊急第3報

2018年10月31日

公益社団法人日本産婦人科医会 会長 木下 勝之  
“風疹ゼロ”プロジェクト作業部会代表 平原 史樹

風疹の流行が現在も続いております。米国 CDC（アメリカ疾病管理予防センター）からは2018年10月22日付で風疹流行につき、予防接種や過去の感染歴がない妊婦の日本への渡航を控えるよう警告が出ています。

現状では特に都会での風疹感染例が目立ちますが、都会と地方との往来は活発であり、20代後半から50代（特に男性例）の大人同士の感染例が目立っております。

一方、女性の罹患例は、全体の20%程度を占めます。そのうち、ワクチン接種既往が明確でない20代以降の女性にも発症例がみられますので、妊娠女性においても、風疹抗体価がHI 16倍以下の場合は、十分に警戒する必要があります。

このような現状から、注意喚起の第3報を出すことといたしました。

### ■産科医ならびに妊婦自身にお願いしたいこと（特に流行が懸念される地域）

- いまは大人同士での風疹が流行しています。
- 軽微な症状の患者は（受診等せずに）感染力をもったまま社会で行動している場合があります。
- 妊婦（20週未満）自身が風疹に巻き込まれないように注意し、また指導等をお願いいたします。
- 風疹流行の最新情報は国立感染症研究所のHPからご覧になれます。

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/700-idsc/2131-rubella-doko.html>

## 《 妊婦自身と周囲に緊急に行動、注意していただきたいこと 》

### 1. 初診で妊娠判明したときのお願い

- ① 直ちに妊婦風疹抗体価検査を（過去のデータがあれば代用可能）実施し、HI 16倍以下のリスク妊婦の場合には、結果を速やかに伝えるなどして罹患予防に徹するよう注意を促して下さい。
- ② 妊娠判明時に直ちに夫、同居家族（定期接種対象の子どもは除く）の風疹接種歴、既往歴等の確認を行って下さい。
- ③ 上記の記録が確認出来ない家族などは風疹抗体価測定を実施して下さい（市区町村保健所等の検査助成の情報提供を参照して下さい）。
- ④ 妊娠している可能性がある女性、妊娠中の女性は、【麻疹風疹＝MR】ワクチンの接種を受けることはできません。

### 2. 風疹抗体の有無の結果が判明するまでの妊婦およびリスク妊婦と判明した妊婦に対しての指導およびお願い

- ① 人混みは避け出歩かないようにして、厳重な防衛策をとって下さい。
- ② 夫がリスク者（風疹抗体をもたない）疑いもしくはリスク者確定なら、夫は直ちにワクチン接種をして妊婦への万全の風疹罹患予防策をとって下さい（MR ワクチンを接種した場合は、接種後 2～3 週間から効果あり）。
- ③ 妊婦から職場の健康管理者に、妊娠初期であることを伝え、職域での風疹患者発生への把握に努めてもらうと同時に、職域での風疹例発生時には直ちに妊婦まで連絡をもらうようにして下さい。
- ④ 職域で患者が出た場合は、患者はもとより、リスク妊婦の『出社の差し控え』を含めて、妊婦への万全の保護策をとってもらえるよう、職場の健康管理者へ申し出て下さい。（主治医からの意見書、指導書面等があればなおよい）⇒出社差し控えの場合は『公休扱い』にしてもらうように働きかけて下さい。

### 3. 職域等の健康管理者等へのお願い

- ① 職域の女性に対し、特に妊婦に対しては厳重な保護対応策をとって下さい。
- ② 職場等での風疹患者発生時の情報共有・警告発信をして、防疫に努めて下さい。
- ③ 妊婦が職場等にいれば、厳に接触が起らないよう出勤を控えさせるなどして保護に努めて下さい。
- ④ 成人の多くは軽微な症状だと、継続して出勤・日常活動していることが多く見られます。発熱等の症状が出ている間は、どの疾患によるのか、診断を速やかに受けさせて対処して下さい。

#### 4. 流行地域の産科医療施設へのお願い

『風疹疑いのある妊婦は、直接の来院受診をしないよう、まずは電話で相談をして下さい。』と指導を徹底して下さい。

また、

『風疹流行につき 付き添い、お見舞いの方は

①マスク着用

②風疹罹患の場合はもとより、疾患名が明らかではない風邪気味（発熱、リンパ節の腫れ、発疹等）の方は来院されませんようお願いいたします』といった掲示をお願いいたします。

#### 5. 妊婦を守るためにすべての皆様へ再三にわたるお願い

- ① 風疹の罹患歴がなく、1歳以上で2回の予防接種記録がないすべての人は、【麻疹風疹=MR】ワクチンの接種を受けて下さい。
- ② 30代から50代男性は風疹の免疫を持っていない人が多く、ぜひ【麻疹風疹=MR】ワクチンの接種を受けて下さい。いま、この世代の男性においては、夫を含め風疹ウイルス感染者がどこにいるかわからない状態が続いています。

#### 風疹について

■潜伏期間 14～21日（平均 16～18日）です。

■初発症状は

- ①発熱
- ②耳介後部、後頭部などの首の後ろのリンパ節の腫脹
- ③全身の発疹で、それは淡紅色の小紅斑や小丘疹を呈します
- ④眼球結膜が充血し、眼が赤くなります。

なお、症状を伴わない不顕性感染も 15～30%みられます。

#### (\*) どのようにすればすこしでもうつされないか？

- ・ 感染は、くしゃみ、咳、唾液のしぶきなどの飛まつによってほかの人にうつります。 インフルエンザと同様に、接触感染でも感染します。
- ・ 発疹の出る1週間前から症状が消えるまでの期間、感染します。
- ・ 不顕性感染でも感染力はあります。
- ・ 症状の出揃う時期がうつりやすいピークとなります。

- ・症状が強いときほど感染力は強いですが、症状がない時にも感染力があることに注意が必要です。
- ・風疹予防はワクチンで防ぐことが最も重要です。

■妊娠 20 週頃までの妊婦が風疹ウイルスに感染すると、お腹の中にいる赤ちゃんにも感染して、赤ちゃんの眼や耳、心臓に影響が及ぶ先天性風疹症候群（#）が出現するおそれがあります。

（#）先天性風疹症候群とは、主に妊娠初期ですが、妊娠 20 週頃までの妊婦が風疹ウイルス感染することによって、難聴、心疾患、白内障などの障害をもって生まれた赤ちゃんのことを言います。その赤ちゃんは、その後、発育の遅れがみられることがあります。

#### 風疹抗体検査の支援とワクチン接種

■成人女性、夫、パートナー等を対象とした風疹抗体検査の費用助成事業が行われています。お住まいの市区町村保健担当部署にお問い合わせをして、積極的に利用してください。

■妊婦さんはまずかかりつけの産科医にご相談ください。

かかりつけ医が風疹に関して正確な情報を得るためには、全国の主要大都市に設けてある 2 次相談窓口

（風疹り患妊婦 2 次相談施設：2018 年 1 月 22 日現在）

[https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/rec\\_20180122.png](https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/rec_20180122.png)

にご相談いただくこともできます。